

楽善会訓盲啞院ものがたり - 障害児教育の歴史をふりかえる -

社会福祉法人 桜雲会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-14-102

助成事業の概要

本事業は、楽善会による訓盲院（現在の筑波大学附属視覚特別支援学校）の設立から約150年。明治の盲・聾教育がどのように始まり、試みられたかを示した『楽善会訓盲啞院記録（翻刻）』の出版を記念して、講演会・シンポジウムを開催し、歴史を振り返り今後目指すべき盲学校（視覚特別支援学校）のあり方を考えていく。

(1) 講演会とシンポジウム

2024年9月14日（土）14:00～16:30

新宿リサイクル活動センター

講演1 基調講演「楽善会訓盲院の設立過程について」山口 崇（筑波大学附属視覚特別支援学校副校長）

講演2「京都に映った楽善会訓盲啞院の立ち姿」岸 博実（日本盲教育史研究会事務局長）

シンポジウム 歴史をふまえ、今後の盲学校のあり方

青松 利明（筑波大学附属視覚特別支援学校社会科教諭）

村田 愛（筑波大学視覚特別支援学校理療科教諭）

(2) 出版

上記の記録を、拡大文字版、点字データ版を併せて出版する。完成後全国の盲学校へ配布。

事業の成果

2024年9月14日に開催された「楽善会訓盲啞院ものがたり～障害児教育の歴史をふりかえる

～」講演会は定員を超える参加希望者がありましたが、会場の関係で募集を締め切らざるを得ないほどの盛況でありました（参加者65名、（視覚障害者28名））。

また、盲学校関係者の参加が多くあり、特に地方からの参加者があったことは、講演会についての興味の高さの結果であったと考えています。

講演、シンポジウムの内容は歴史をふりかえることにより改めて学び、今後盲学校の目指すべき方向を考えるための貴重な講演会になったと考えております。

質疑応答の時間も参加者から多くの発言があり、今後の盲教育について真摯な意見が出されたことは主催者として喜びでもありました。

講演会の内容を「楽善会訓盲啞院ものがたり～障害児教育の歴史をふりかえる～」講演会記録として出版いたします。この講演会記録は、歴史的な資料としての価値が高いものとなっており、今後の盲学校の歩みの指針となれbとを考えております。報告書は完成後全国の盲学校に配布し、講演会の参加者だけでなく全国の盲学校関係者の方々とこの資料を共有し活用できると考えております。

成果の広報・公表

講演会のお知らせを、点字毎日（週刊）、点字JB ニュースに掲載していただき、講演会案内チラシを盲援学校、点字図書館、視覚障害者団体、盲ろう者協会等に配布し講演会の周知を図りました。

た。

2025 年 5 月に「楽善会訓盲啞院ものがたり
～障害児教育の歴史をふりかえる～」講演会記録
活字版・点字データ版）を出版し、全国の盲学校
に配布します。

■ 今後の展開

現在全国の盲学校は、少子化、医療の発展、インクルーシブ教育（すべての子どもが同じ環境とともに学びあう教育）を進めていくという世の中の方向性のなかで、生徒数の激減という厳しい現状であります。このことは筑波大学附属視覚特別支援学校（以下、筑波附属盲）でも例外ではありません。しかし、教員の専門性と高い指導力、全国から生徒が集まり、教員・生徒が共に学びあいながら、生徒が次の歩むべき道を切り拓いていくことのできる教育を今後も目指すことが重要であるとの再確認がこの事業によって出来ました。

日本の点字は筑波附属盲の教師・生徒の切磋琢磨のなかから誕生しました。現在も未来もその筑波附属盲の DNA を引き継ぎ、文字である点字を使い理論形成をすること、触ることへの挑戦等、また点字を中心とする日本独特の文化、教育の歴史を継続していくために中心的な役割を果たしていく自覚を筑波附属盲が持ち、リードしていくことが求められています。

この報告書は全国の盲教育に携わる方々、視覚障害者福祉・就労等の関係者の今後の指針のひとつになると考えております。